

第31回全日本中学校長会 山梨大会報告

1. 大会の趣旨

わが国の教育は新たな転機を迎え、われわれは人間性豊かな日本国民の育成を日ざした教育実践を決意した。新しい教育課程の完全実施を目前にして、われわれはここに第31回全日本中学校長会山梨大会に総力を結集し、課題解決の方途を研究討議し、もって中学校教育の充実と発展を期するものである。

2. 大会主題

豊かな人間性の育成をめざす中学校教育の充実

3. 分科会研究題

- (1) 新教育課程の編成および運営上の諸問題
- (2) 中学校教育充実のための教育諸条件の整備
- (3) 中学校における生徒指導のあり方
- (4) 中学校におけるクラブ活動と部活動のあり方
- (5) 中学校における進路指導のあり方
- (6) 学校経営における校長の専門性とリーダーシップ
- (7) 主任制に伴う学校運営上の諸問題とその対策
- (8) 教職員の資質の向上と教員養成制度の改善

4. 主催

- ・全日本中学校長会
- ・関東甲信越地区中学校長会
- ・山梨県公立小中学校長会

5. 後援

文部省、山梨県他7団体

6. 期日

昭和55年10月22日(木)から24日(金)まで

7. 大会参加者

1,630名(本県からは35名参加)

8. 記念講演(大会最後をかざるもの)

演題 「現代中学生気質」

講師 山梨日下部病院長 松井紀和先生

9. アトラクション

(大会第2日の中食時に行なわれました。)

和太鼓天野会 天野 宜 氏他お弟子方

氏は国際連合記念コンサートソリストにあり、また山梨県甲府市指定無形文化財保持者でもあります。その勇壮豪華な演奏に会場から万雷の拍手があがりました。

10. 全体協議題

「新教育課程実施にかかわる諸問題」

第1提案者

全日中研究部長 原島信義先生

第2提案者

京都市立伏見中学校長 中島国義先生

第1提案は全日中本部提案でもあるので、その詳細を後に記載することとします。

第2提案は、具体例として詳しい資料を付して提案されましたが、紙面のつごうで項目だけを記してみました。

(1) 教科の指導内容の精選について

ア 教科指導におけるゆとりと充実

イ 教科の指導内容精選の一例

(2) 授業時間数の確保について

ア 授業時数確保の実態

イ 授業時数確保の手だて

(3) ゆとりの時間の週時程表への位置づけ

(4) 年間計画作成の手順

(5) 具体例

11. 本部提案「教育課程実施にかかわる諸問題」

(1) 教育課程編成、実施上の基本的態度

80年代の幕明けとともに日本の教育は新たな局面を迎えた。全日中は新時代に対応するため、これまで中学校教育の使命、改革、推進、展開、充実という主題を掲げて、累積的に研究を推進して来た。

また、全国各地域の校長会でも望ましい中学校教育のあり方を求め具体的実践に取り組んでいる。これからの学校教育に期待されている内容は新学習指導要領に示されているが、人間性の回復、人間性の尊重を基本に民主的国家社会の形成者として、国際社会の中で信頼と尊敬をうける日本人の育成に意を注ぐ必要がある。

そのための具体的方策について、昨年度の教育課程特別委員会の審議経過、研究部による全国調査結果の考察からいくつかの問題が提起された。その主なるものは、

- ① 学校観の見直し
- ② 調和と統一のある教育課程の編成
- ③ 教師の研修のあり方
- ④ 校長の指導性、等である。

これらの諸問題に対する考え方について以下具体的に提言したい。

(2) 具体的提言

ア 学校観の見直し

(ア) 授業観の変革

学校教育の中核となるものは授業である。生徒が自ら考え、正しく判断する力を育てる教育が強調されているが、そのためには基礎的・基本的な内容を重視し、教材を精選し、指導方法を改善していかなければならない。

このことは授業の質的転換を図るということである。いわゆる量から質という発想の転換が求められている所以はここにある。1時間の授業の充実はいわゆる「ゆとり」を生み

出し学校生活の充実ということと結びつくのである。

密度の高い授業を行ない生徒の学習を真に保証していくためには、新学習指導要領に示されている50分を常例とする精神は十分に尊重されていかなければならない。

(イ) これからの学校像

地域に開かれた学校ということがいわれてきて久しい。現在の学校の現状を見るとき、地域の中の学校という認識をいっそう深め、学校と地域の連けいを強めていくことが必要であると考えられる。

学校が行なう教育活動等は積極的に地域の社会教育施設等を活用していくことを考えるべきである。また地域住民の学校教育に対する意見を尊重するとともに相互に協力しあうことも現在以上に必要である。これらのことがより真剣に考えられていくべきである。

そのためには学校と地域との相互信頼が前提となるが、この信頼関係が太いパイプで結ばれることにより、学校は地域の中の学校としての役割を果たすことができる。

閉ざされた学校から開かれた学校のあり方の検討は緊急のものとなってきている。

イ 調和のある教育課程の編成

(イ) 知・徳・体の調和

知育偏重の教育がさまざまな弊害を生んできている実態がある。心身ともに健全な生徒を育てるためには、知・徳・体の調和のとれた発達を目指した全人教育を行なわなければならない。

新しい教育課程を編成するうえで、選択教科の扱い方が各地域で問題となってきている。具体的には3年の選択教科に対する考え方であるが、基本的には学習指導要領の精神をふまえて、詰め込みにならないように配慮していくことである。

学校として生徒の個性、能力に応ずるため、適切な内容を選択し調和のある教育課程を編成するよう努めるべきである。

いうまでもないが、教育課程は学校が編成するものである。したがって学校は学習指導要領、その他法令等の研究を行なうとともに、生徒や地域の実態を的確には握したうえで校長の責任において編成していくこととなる。

(イ) 道徳的实践力の育成

21世紀に活躍していく生徒には、ただ単に知識や記憶力だけでなく、特に道徳的实践力が要請されている。新しい教育が期待している人間性豊かな生徒の育成には道徳性を養うとともに、その実践のための指導が必要である。自律的精神とともに人間愛や自然愛を大切にす豊かな情操、特に社会連帯意識や奉仕の精神に基づく実践的社会的の育成に留意する必要がある。

今日の学校教育や社会教育を考えると、このような道徳教育をいっそう推進するため教育課程を編成する配慮が大切である。

ウ 教師の役割

(ア) 自己啓発と研修

80年代の教育を推進していくうえで教師の資質、力量が問われている。生徒、父母から信頼されるためには、教師としての豊かな教養を保持するとともに、専門職としての意識をもって、不断の研修に努めなければならない。

特に新教育課程の実施をひかえ、その精神を日常の教育実践に生かすよう自己啓発に励み、教育技術の開発実践に努力していくべきである。

(イ) 主体的実践

学校は法令にしたがい、生徒、地域などの実態に即して適切な教育活動を展開していく。そのためには校長を中心に全校職員の創意工夫と実践的協力によって学校運営が行なわれていくことが必要である。

これからは学校における実践を重視した研修を尊重し、教師の熱意と創意が学校経営に反映できる体制、組織を確立していくことが

重要となる。マンネリ化を防ぎ、生き生きとした学校経営をするためにも、一人ひとりの教師の主体的実践を大切にしていけることが必要である。

エ 校長の指導性

教育はつねに将来の展望に立って意図的、計画的に実践されていかなければならない。そのためには校長は広い見識をもち、未来像を画く中で学校経営を行っていく責任がある。新しい教育課程を編成、実施していくうえで各学校の創意工夫ということが強調されているが、創意工夫を学校の中にとり入れていくことも校長の指導力に左右されるところが大きいと考える。

教育の創造性、学校の主体性、教職の専門性等を思うとき、校長の識見、判断力、洞察力、決断力、実行力等々がいよいよ問われているのである。

(筆者注) 提案者は、力強く、80年代は国際協調の時代となるかと述べたことが、聴く者をしてきわめて印象的でありました。

また、第8分科会において提案者が、専門職の基本指標としてリーバーマンの説から示されたことは、大方の参考になるかと思えます。

- ユニークで、その範囲と機能が明確に限定された、社会的に不可欠な仕事であること。
- その仕事の遂行にあたっては、高度に複雑な知的技術に重点がおかれていること。
- 長期の知的な専門訓練を必要とすること。
- 個人としても、また職業集団全体としても広範な自律性をもっていること。
- 専門的自律性の範囲内において行われた判断や行為について、各人が広範な責任を負うこと。
- 経済的な報酬よりは、社会的サービスが強調されること。
- 免許、入会、除名等の規制権を有する総合的な自治的な職業団体を構成していること。
- 具体的に適用される倫理綱領をもつこと。

(以上参考までに)

12. 栃木の風土と教育

(ひとりひとりの教師が、ひとりひとりの子どもの中に生きる栃木の教育)

(筆者注) この文は、今回の大会誌上にのせられたもので、大会に参加できなかった会員方の参考にとします。

(1) 自然環境

関東地方の東北部に位置する内陸県で、面積は6,414km²で東西75km、南北約98kmあり、関東都県の中で最も広大であり、現在12市7郡(33町4村)に分かれている。

栃木県の自然は東部の八溝山地、北部から西部にかけての那須火山帯、帝釈山地、足尾山地の山岳地と中央部の那珂川、鬼怒川、渡良瀬川の沿岸低地に大別される。

東部の八溝山地は標高600~1,000mのなだらかな丘陵地で、北部から西部にかけての山間部は日光国立公園に指定されており、日光、鬼怒川、川治、栗山、塩原、那須などの観光地として名高い。

那須火山帯は、那須、高原、男体の諸火山が連なるけわしい山岳地帯で、標高2,000m以上の山脈が関東の北限を形成し、瀑布や湖沼が点在している。また、諸河川の源ともなっており、鬼怒川は中部を、渡良瀬川は群馬との県境を流れ利根川に合流し、那珂川は八溝地域から東折し茨城県に入り、ともに太平洋に注いでいる。

気候は、寒暖の差が大きく、冬は空気が乾燥し、夏は湿度が高く、年間を通じ比較的雨量が多い湿润帯気候である。1日の気温の最低と最高の較差が大きいこと、夏季は雷の発生が多く、冬季は男体おろし、那須おろしの空っ風が吹くのが特色である。

(2) 風土と県民性

県民性について、文化人類学の祖父江孝男教授は、歴史と関連させて、江戸時代の細分化された分割統治(小藩)の後遺症の影響があり、なんとなく特色がなく、くすんでいる。発展性に乏しく、

一般的に、初対面の印象が悪く、世渡りが下手でお人よしである。このように目立つ面のないのが残念だが、真面目で堅実な点を長所とする、とのべている。

またある人は、本県出身の歌手である「森昌子」の人柄のように、スターとしての派手さはないが、実力と底力を内に秘めた謙きよな一面が特色であろうと指摘する声もある。

しかし、このおだやかな精神風土に対し、反抗、律義に生きた歴史上の人物も多い。寛政の三奇人とうたわれた蒲生君平、坂下門外に老中安藤対馬守を襲げきした坂下斬奸一挙の指導者、大橋菴竜、小山春山、児島強介等、また、日本の公害第1号であり、原点といわれる足尾鉍毒事件で生命をかけた田中正造などの生き方である。

いま、180万県民は「連帯感あふれた地域社会をめざして」心の豊かさと創造性に富む栃木の風土づくりに努力している現状にある。

(3) 教育行政の重点施策

県教委においても、人間尊重の精神にあふれ、明るく健康で、知性に富み、豊かな情操と道徳性をそなえ、郷土の自然と文化を尊重するとともに、国際的視野をもち、国家・社会の発展に貢献し得る。創造性と実践力に富む県民の育成を目指して、長期的展望にたち、総合的・計画的な教育を推進している。

特に、変動する現代社会にあって多様な価値感や教育に対する要請と期待が著しく増大している中で、生涯教育の観点に立つ家庭・学校・社会を通ずる全教育体系にわたって教育条件の整備充実を図り、心の豊かさと創造性に富む人づくりを基本に据えて教育栃木の創造に努めている。

(本年度の努力点)

ア 豊かな人間性を育てる学校教育の充実

- 調和ある学校運営を特色ある学校づくりの促進
- 教育内容・方法等の改善充実
- 同和教育の推進
- 教職員の使命感の高揚、資質・能力の向

上と勤務条件の改善

- 教育の機会均等の確保と学校施設設備の整備充実

イ 特殊教育の充実

- 心のふれあいをもたらす社会教育の振興
- 連帯感あふれる人間性豊かな風土の醸成
- 少年自然の家等社会教育施設の整備充実
- 生涯教育センター整備計画の推進

ウ 健やかな心身をつくる県民総スポーツの推進

- 栃の葉国体を契機に体育施設の整備充実とその活用

エ うるおいのある香り高い文化の振興

- 県立博物館の整備
- 県立美術館の増設等

(4) 中学校教育の実情

本県公立中学校は、167校で、うちへき地指定校は12校である。

また、特殊学級設置校は105校で精神薄弱127学級、難聴1学級、情緒障害1学級である。

本年度の県中学校費ま421億円である。

「ひとりひとりの教師が、ひとりひとりの子どもの中に生きる、栃木教育」の実現を目指し、調和と秩序のある学校運営がなされているが、次のような課題も山積している。

ア 創意ある教育課程の編成と実施

新教育課程全面实施を明年にひかえ、「ゆとりの時間」の有効な活用について研究推進されているが、学校裁量の特設時間の設定により、学校生活全体にゆとりがなく、授業の充実に重点をおくべきであるという意見や、選択教科の履習についても、多様な意見が出ている。

イ 生徒指導の充実強化

中学生の非行も多様化し増大の傾向にある。特に、万引・窃盗、オートバイ等の無免許運転は集団化の傾向が強い。また、家出・外泊登校拒否等、多くの問題がある。これらは、家庭環境に起因するものが多く、その指

導に当たっては、学校教育の限界を感じながらも、背を向けるわけにはいかない。学校が主体となった地域ぐるみの生徒指導のあり方が実践されなければならない。

ウ 進路指導の充実強化

高校入試対策と全人的教育の調和こそ中学校教育の課題である。進路決定に当たった適切な指導は勿論、能力・適性や個性を生かす計画的、継続的な進路指導にも問題が残されている。

エ 同和教育の推進

運動団体の主張と学校が行なう同和教育は、明らかに一線を画さなければならない。教育の中立性・主体性を確立し、地域や学校に応じた同和教育の実践がさらに全県的に充実されなければならない。

オ 現職教育の充実

本県は、研修センター等の実施する教員研修体系は極めてよく確立され、その参加率もよいが、研究団体の行なう研修はやや一般化も見られ、特に主体的な校内研修の充実については、今後の本県の課題であろう。

(5) 校長会のあゆみ

ア 草創期(昭和22~26年)

戦後の荒廃と疲弊の中にあって、教育の民主化・教育の機会の均等化を目指して、六・三制が、一挙にかつ半ば権力的に発足した。

義務教育を3年延長して生まれた新制中学校は、国民学校という母体を持った小学校、旧制中学校という母体を持った高等学校とは異なり、校舎も、先生もないままに発足することになった。しかし敗戦でどん底の生活にあえいでいた当時の国民は、国家の復興と民族の発展をただひとすじに六三制義務教育の成果にかけた。

このような現状の中にあって、昭和22年県教育会館に、県下中学校長が参集し、協議の結果栃木県中学校長会の発足をみた。

その主たる活動は、進駐軍司令部ならびに、県当局の諮問にこたえて、陳述を行なったほか、

中学校教育の実情や苦悩を訴えた。会議は、集会の許可を得なければならない上に、余裕もなかったもので、学期一回ぐらいの会議に終るのが常であった。

また、昭和24年には、中学校教育の高揚をめざして、第1回関東地区中学校長大会を日光湯元の南間ホテルにおいて開催し、最後に中学校教育振興の方策を宣言決議して、その貫徹を期するために邁進することを誓う。

イ 第1次発展期(昭和27～32年)

昭和25・26・27年ごろは、会の運営もいよいよ軌道にのり、全国中学校との連絡提携のもとに、当時台頭してきた給与三本建阻止、産振法の促進、ベースアップなどの運動を、関係機関等にもかって強力に展開した。

昭和31年には、栃木県中学校創立10周年記念大会を教育会館にて開催し、中学校本来の使命達成を阻害する高等学校入学選抜方法の是正、産業教育ならびに理科教育振興のため、これら施設設備の整備強化を図ること、教員定数1学級当たり2名を確保し、1学級編成基準は生徒数55名以内とすること。これらについて決議文を知事、県会議長、県教育委員会に提出し、強力に働きかけた。

また、昭和32年には、関東甲信越地区中学校長研修会第2回栃木大会を、宇都宮市栃木会館で開催した。

ウ 第2次発展期(昭和33～42年)

昭和33年には本会の組織を強化し、庶務部、事業部、進路指導部、職員対策部をおき、部長を郡市中学校長会長と等しく理事とした。

この期間は、栃木県中学校教育研究会の発足に努力し、中学校職員の主体的、実践的な教員研修を促進した。

また、昭和39年には第1回中学校教育高揚大会を開催し、教職員の資質を高める方策、中学校に優秀なる人材を確保する方策、ならびに、施設設備の充実に貢献した。

昭和41年には、第18回関東甲信越地区中学校長研究協議会栃木大会、中学校創立20周年記念

振興大会、中学校20年史の刊行など42年にかけて実施した。

エ 第3次発展期(昭和43～52年)

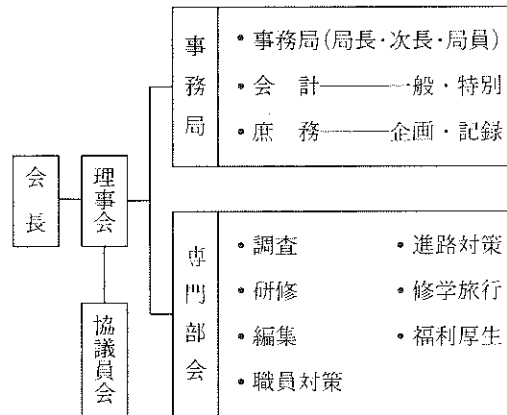
校長会規約の一部改正、校長会事務局の設置など組織をさらに強化するとともに、教職員の待遇改善、退職年令の延長ならびに退職時の優遇措置など、その改善を図った。

特に、昭和45年には、小学校長会、PTA連合会、県教委、市町村教委連合会等との連けいのもとに、第1回栃木県義務教育振興大会を開催し、人間尊重を是とする本県の教育をさらに進展させるため、人材の確保、環境の整備、学力の向上、教育格差の是正など山積している問題について、教育の原点に立ち、教育諸条件の抜本的検討を加え、義務教育尊重の気風を振興し、教育栃木の風土づくりに努力し、以後毎年実施されている。

オ 第4次発展期(昭和53年以降現在まで)

前期のとおり草創以来30年を経て、さらに新教育課程実施のときに当たり鋭意努力中である。

現在の本会の組織は次のとおりである。



平岡芳太郎(小山二中)

第32回関ブロ中学校長研究協議会長野大会報告

去る6月12日、13日の両日、長野県諏訪市諏訪市文化センターで関ブロ中学校長研究協議会が開催され、本県からも河又会長さん外58名の校長先生方が全体会と9分科会に参加しました。以下大会の概要を報告します。

1. 日時 昭和55年6月12日(木) 6月13日(金)
2. 会場 長野県諏訪市文化センター 外分科会場 8会場
3. 協議題 「豊かな人間性の育成をささぐ新教育課程へのとりくみ」

- (1) 人間性豊かな生徒を育てるための学校教育目標の設定とその具限化
- (2) ゆとりあるしかも充実した学校生活を送れるための創意ある学校経営

4. 研究協議会の概要、報告

(1) 全体協議会

6月12日の文部省中学校教育課長補佐、草原先生より指導をいただいた内容の要点は次のとおりです。

80年度は不透明、不確実の時代といわれているが、今後の変化の方向を考えると経済では、農業立国から工業中心に、さらに脱工業から情報化社会になりつつある。知識が経済発展の中心となる。従って学校の知識が古くさくなる。従って学習社会を成立させる時代がくるだろう。

この為、第1に自ら判断し、対応出来るようにしたい。第2は上からのおしきせを嫌って、今後学校や地域の創意くふうによって、やらねばならぬ時代がくる。

第3は今後国際社会において相互依存が、ますます強くなるだろう。

海外との交流が多くなればなる程、国際社会で

信頼と尊敬をえられるような日本人の育成と、個性を尊重する教育が、今後一層必要だ。

ゆとりと充実については、先生方の負担がふえるかも知れないが、毎時間ゆとりを持たせ生徒ひとりひとりの個性を伸ばしたい。

(2) 分科会

分科会テーマ

- 第1分科会 新教育課程の編成と運営はいかにあるべきか。
- 第2分科会 主任制に伴う学校運営上の諸問題とその対策はいかにあるべきか。
- 第3分科会 新しい時点に立つ中学校の心身に障害をもつ生徒の教育はいかにあるべきか。
- 第4分科会 ひとりひとりを生かす生徒指導はいかにあるべきか。
- 第5分科会 能力適性に応じた進路指導はいかにあるべきか。
- 第6分科会 部活動の充実をはかる指導体制はいかにあるべきか。
- 第7分科会 教職員の現職教育はいかにあるべきか。
- 第8分科会 教員の養成制度はいかにあるべきか。
- 第9分科会 新教育課程にともなう教育諸条件の整備はいかにあるべきか。

各分科会の概要

第1分科会

新教育課程の編成と運営で3年の選択教科の履習をどのように考えればよいか、か大きな問題でした。その声の一部を記載すると

- 円満な人間形成の立場から考えて英語はとりあげたくない。(3年生の英語を3時間のみ)
- 校長会の意向は決定していないが3年の選択を英語のみ4時間にしたい声が多い。
- LLを使う英語をやってよいのではないか。
- 英語を3時間にすると、英語科教員の定数について問題が残る。

など3年生の選択の英語を文部省の指導のように3時間にするか、あるいは1時間加えて4時間にするかという問題が多く取り上げられました。

次に週時数の問題では、教科の削減によって生じた、ゆとりの時間については学校長として生徒ひとりひとりに充実した学校生活ができるために、研究し、しっかり整理していくことが大切であるということになりました。

第2分科会

- 学校教育目標をふまえ、望ましい校務分掌をどのように組織したらよいか。
- 主任制にともなう学校運営上の諸問題とその改善策はどうあったらよいか。
- 校長の職務と主任の職務との関連はどうあったらよいか。などについて話合われました。

第3分科会

特殊学級の入級指導、進路指導、教育課程、指導体制、は今日各中学校で一番悩んでいるものの一つである。

この中で特殊学級生徒の進路指導について、教師は就職を勧めるべきか、進学を勧めるべきか迷うことがある。現在特殊学級生徒でも高校進学希望者が増加している現状である。

その他特殊学級への入級問題が非常に問題となっていて、なかなか入級したらない。その他教育課程のこと、特殊学級教師養成のことなど問題点が多いが、今後は普通学級を含めた教育問題と考えられる。

第4分科会

- 豊かな人間性を培うことは生徒指導が基底であるが学校教育全体の中でも考える必要がある。また生き生きとした学校生活をさせることが生徒指導であり特別な徳目をかけなくても特別活動の充実や長野県屋代中学校のように校長の積極的な生徒にかかわりによ

って成果を上げることが出来るだろう。

- 昔の生活の実態は年令に応じて体験的な生活実態があった。現在のような生活の無い子どもを、地域や家庭、学校の三者でどのようにしたらよいか、それぞれの機能を見なおす必要がある。

第5分科会 省略

第6分科会

- 部活動は学校教育内の活動である。社会教育の方向はとらないであくまで校長の責任でやるべきだ。
- 経費については公費で負担すべきである。各県とも予算化の働きかけをして欲しい。
- 対外運動競技の参加については学校教育内の立場から校長が主体的に処理すべきだ。

第7～9分科会までは紙面の都合上省略

高柳 久(雀宮中)

編集後記

師走となり会員の校長先生方ご忙しい中お元気で活躍されていることと思います。第2号は、全日中山梨大会と関プロ長野大会の報告を掲載しました。全日中報告を平岡校長先生よりいただきありがとうございます。

よい年をお迎えくださるよう念じて本号をお届けします。

(編集部・高柳)